

## WATCH

## 韓国

20年間で初婚年齢変化  
女性は経済的自立が影響

日本では「婚活」という言葉が市民権を得ている

が、韓国の結婚事情はどうだろうか。データで見ると、韓国の男性の初婚年齢は1990年から2010年までに27・9歳から31・8歳へと3・9歳、女性は同時期に4・1歳(24・8歳から28・9歳)遅くなり、男性より差が拡大している。大都市のソウルでは、10年時点で男性32・16歳、女性29・82歳で、女性の方が全国平均との差が大きくなっている。

男性に兵役義務のある韓国では、20年前はずいぶん早く所帯を持っていたことがわかる。一般的な大卒男性の場合、24〜25歳で兵役を終え大学を卒業し、2年ほどで結婚、といったイメージだ。現在は経済力や仕事が一前になってから結婚、という傾向が見られ、大学進学率の上昇や留学志向を考慮すれば、ごく普通の社会変化と捉えることもできる。

一方、女性は就業機会の増加が影響している。89年に715万人だった女性就業者数は、11年には1009万人と大きく伸びた。経済上の事情もあろうが、人口比で言えば相当数が学校卒業後就職し、30歳近くまで働いているイメージだろう。

ソウルの女性初婚年齢が男性よりも全国比で大きいことは、就業機会の多さとともに、都市部で経済的に自立している「働く女性像」を想像させる。これも変化が早い韓国の一面かもしれない。

(小林 中・韓国住友商事会社社長)

